

「多くの病人をいやす」

2015年05月30日

ルカによる福音書 6章17節～19節。イエスは彼らと一緒に山から下りて、平らな所にお立ちになった。大勢の弟子とおびたしい民衆が、ユダヤ全土とエルサレムから、また、ティルスやシドンの海岸地方から、イエスの教えを聞くため、また病気をいやしていただくために来ていた。汚れた霊に悩まされていた人々もいやしていただいた。群衆は皆、何とかしてイエスに触れようとした。イエスから力が出て、すべての人の病気をいやしていただくからである。

主イエスは「使徒」として選んだ12人の弟子たちと共に山を下りて来て、平地に立たれた。すると、おびたしい民衆が押し寄せて来た。ユダヤ全土、都エルサレムはもとより、イスラエルの北西に位置する地中海に面した異邦のティルスやシドンからも集まって来た。主イエスの教えを聞くため、病気をいやしてもらうためであった。また汚れた霊に悩まされている人々も解放を求めて来た。彼らは皆、何とかして主イエスに触れようとした。触れた者は主イエスの力に与り、いやされたからである。ガリラヤは、主イエスの神の国の宣教で沸き立つ状態になった。

主イエスの神の国の宣教は三つのことであった。まず① 教えである。教えの中心は、神はあなた方の生を「よし」とし、あなた方は恵みと祝福の中にあるということであった。このメッセージは時代の価値の逆転を意味していた。それは、ルカ福音書5章31節の「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」、また13章30節の「そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある」の言葉などで言い表されている。当時は、律法を守り、裕福で力ある者が神に愛されていると考えられていた。主イエスは、その考えを逆転し、貧しく、弱い者が優先的に神の恵みに招かれていると語った。律法の下で、差別管理された宗教体制をひっくり返した訳である。このことが、体制を築いていた権威ある人々から危険人物と見なされ、命を狙われるようになっていった。

② 病気のいやし、③ 悪霊からの解放である。病気になる、悪霊に取りつかれる（精神的な病になる）ことは罪に対する裁きと考えられた。その人々は「罪人」とされ、ユダヤの共同体から排斥された。病気は肉体的、精神的、経済的、社会的に困難を負うことであるが、宗教的にも汚れた者とされた訳であるから、こんな残酷なことはない。それからのいやし、解放は共同体への復帰、人間回復を意味していた。主イエスは、神に愛された者として「共に生きること」を伝えた。福音は神の是認を共有し、互いを受け入れ喜び合うことだからである。

福音書が伝える病気のいやしや悪霊からの解放はドラマチックな奇跡として描かれている。私は初めて聖書を読んだ時、主イエスの壮絶な愛を知り、同時代に生きて、主イエスを自分の目で見たいと思った。しかし奇跡には「あり得ない」と躓いた。そして主イエスの捕縛、裁判において、逃げ去った弟子たちの姿を見て、奇跡は事実ではない、なぜなら、あれだけの奇跡を本当に見たのなら、決して逃げ出しはしないと思ったからである。奇跡をそのまま信じる必要はない。ところが、苦悩の中にある時、主イエスによって立たせられ、目が開かれる奇跡と同じことを追体験する。その時、奇跡のメッセージは真実であると承服させられる。福音書が告げる奇跡は私の身に起こる喜びなのである。